

論文の内容の要旨

氏名：山 岸 俊 介

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：ラジオ波焼灼療法後の再発肝細胞癌に対する肝切除の検討

〔目的〕：ラジオ波焼灼療法（RFA）は腫瘍径の小さい肝細胞癌（HCC）の局所的治療として有効である一方で、比較的高頻度に局所再発を認める。本研究では当科で施行した RFA 後の再発 HCC に対するサルベージ肝切除の妥当性について検討した。

〔方法〕：RFA 後再発 HCC に対して肝切除を施行した患者（RFA 後肝切除群, $n = 54$ ）と再発 HCC に対して 2 回目の肝切除を施行した患者（再肝切除群, $n = 266$ ）を対象とした。術後短期成績をこの 2 群間で比較し、生存率は患者背景、肝機能、腫瘍条件を 2 群間で揃えた後、傾向スコアマッチングにより比較検討した。

〔結果〕：術式については RFA 後肝切除群で拡大手術の頻度が多い一方で、手術データと合併症発生率は両群間に有意差を認めなかった。全生存期間は再肝切除群（中央値, 5.6 年; 95%信頼区間, 4.5 – 7.3）で RFA 後肝切除群（4.4 年 ; 2.2 – NA, $P = 0.023$ ）より有意に延長している一方、無再発生存期間は 2 群間で有意差を認めなかった（1.2 年 [0.5 – 1.8] vs 1.3 年 [0.4 – 2.2], $P = 0.469$ ）。また、コックス比例ハザード回帰モデルによる多変量解析では、局所再発（ハザード比 2.73; 1.06 – 9.00）が RFA 後肝切除群における全生存期間に対する唯一の独立因子であった。

〔結論〕：RFA 後再発 HCC に対するサルベージ肝切除は手術手技上安全であり、特に RFA 後局所腫瘍進展を認めない症例が良い適応である。

牽引用語：ラジオ波焼灼療法, 再発肝細胞癌, サルベージ肝切除